

不稔多発圃場での粃黄化率調査法

福島県農業試験場相馬支場
平成15年度福島県農業試験場試験成績概要

1 部門名

水稻－水稻－気象災害、収穫・乾燥・調製
分類コード 01－01－32240000

2 担当者

木田義信・大谷裕行

3 要旨

不稔が多発し、偽稔粃が発生した圃場で、刈り取り適期判断のための粃黄化率調査法について検討した。

- (1) 「黄化粃／全粃」で計算した黄化率は出穂後40日を過ぎても約16%で停滞し、また、「黄化粃／透視稔実粃(透視板で中味が見える粃)」で計算した黄化率も、偽稔粃により、約65%で停滞するため、刈り取り適期の判断には使えなかった。
- (2) 「黄化粃／稔実粃」で計算した黄化率は、出穂後40日後には、刈り取り適期とされる80%に達していたが、稔実粃数を求めるには偽稔粃を風選で除去する必要があり、乾燥に時間を要するため、現地での調査法としては適切でない。
- (3) 調査当日に透視稔実粃を水洗すると、沈下粃と浮き粃に分かれた。沈下粃は稔実粃だけで、浮き粃には偽稔粃、開穎粃、未熟粒が含まれていた。浮き粃中の開穎粃と未熟粒は1～2粒であり、水選で稔実粃を分離することができた。
- (4) 「黄化粃／沈下粃」で計算した黄化率は、「黄化粃／稔実粃」の黄化率より約3%低くなるが、刈り取り適期の判断には、十分利用できると考えられた。

以上のことから、不稔が多発し、偽稔粃の発生が疑われる現地圃場では、黄化粃を数えてから水洗し、沈下粃を数えることにより、調査当日に精度の高い粃黄化率の調査ができる。

4 その他の資料等

なし